

地震調査研究推進本部政策委員会
第84回調査観測計画部会 議事要旨

1. 日時 令和2年2月3日(月) 15時00分～15時28分

2. 場所 文部科学省(合同庁舎第7号館東館) 5F3 会議室
東京都千代田区霞が関3-2-2

3. 議題

- (1) 令和2年度の重点的調査対象活断層について
- (2) 令和元年度補正予算及び令和2年度予算案における地震・津波観測網について
- (3) その他

4. 配付資料

- 資料 計84-(1) 地震調査研究推進本部政策委員会調査観測計画部会構成員
- 資料 計84-(2)-1 活断層の重点的調査観測の対象選定について
- 資料 計84-(2)-2 重点的調査観測の候補
- 資料 計84-(3)-1 地震・火山観測網の復旧・更新、海底地震・津波観測網の復旧
- 資料 計84-(3)-2 南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)の構築
- 参考 計84-(1) 地震調査研究推進本部政策委員会第83回調査観測計画部会議事要旨

5. 出席者

(調査観測計画部会長)

平原 和朗 国立大学法人京都大学名誉教授／
国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センター非常勤研究員

(調査観測計画部会委員)

青井 真 国立研究開発法人防災科学技術研究所地震津波火山ネットワークセンター長
青木 元 気象庁地震火山部管理課長
岡村 行信 国立研究開発法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター活断層・火山研究部門特命上席研究員
河瀬 和重 国土地理院測地観測センター長
瀬瀬 一起 国立大学法人東京大学地震研究所教授
小平 秀一 国立研究開発法人海洋研究開発機構海域地震火山部門長
篠原 雅尚 国立大学法人東京大学地震研究所教授
高橋 浩晃 国立大学法人北海道大学大学院理学研究院教授
長谷川 昭 国立大学法人東北大学名誉教授
平田 直 国立大学法人東京大学地震研究所教授
藤田 雅之 海上保安庁海洋情報部技術・国際課長
藤原 治 国立研究開発法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター活断層・火山研究部門副研究部門長

(事務局)

工藤 雄之 研究開発局地震・防災研究課長

齋藤憲一郎	研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長
林 豊	研究開発局地震・防災研究課地震調査管理官
水藤 尚	研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官
中出 雅大	研究開発局地震・防災研究課課長補佐
望月 公廣	文部科学省学術調査官

6. 議事概要

(1) 令和2年度の重点的調査対象活断層について

○資料計84-(2)-1、計84-(2)-2に基づき、令和2年度の重点的調査対象活断層について、事務局より説明。主な意見は次の通り。

【岡村委員】 屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯（恵那山－猿投山北断層帯）の選定については、異論ありませんが、この断層帯の全てを調査観測し明らかにすることは非常に厳しいと思います。その一方で、猿投－高浜断層帯があり、この断層帯の南側の延長が深溝断層帯で、それは1945年の三河地震を起こした。東南海地震と南海地震の間の時期に起こったM7程度の地震でかなり大きな被害が出たと思いますが、そういう断層の北側延長に位置するという点も注意して、少し公募文章に配慮いただきたいと思います。

【水藤企画官】 岡村委員が言われるとおり、この断層帯は5つの断層帯から成っており、この重点の対象が恵那山－猿投山北断層帯で、そのほか4つ全てを調査観測するのは、かなり難しいと考えております。隣接する例えば屏風山断層帯、若しくは赤河断層帯の活動履歴も一緒に考えていただいても良いと思っています。2点目は、1945年の三河地震の断層に繋がるおそれも考えられるので、公募には対象とする断層帯に隣接するところも含めて調査をする旨を工夫して記述したいと思います。

【青木委員】 資料計84-(2)-2について、重点的調査観測の候補で3つ残っていて今回屏風山の選定に対して、単純に人的なリスク面から人口が670万人掛ける地震発生確率2%と、三浦半島の200万人掛ける地震発生確率11%では、掛け算すると三浦半島の方がやや大きくなるわけですが、今回は、屏風山の方が一気に動くと非常に大勢の方が影響を受けることと、屏風山の方は断層が複雑でよく分かっていないことが多いということで、先に重点的に調査観測するというような認識でよろしいでしょうか。

【水藤企画官】 そのとおりです。それらに加えて、想定される地震規模が恵那山－猿投山北断層帯ではM7.7と非常に大きいという点も挙げられます。

【平原部会長】 特に御意見ないようでしたら、議題(1)令和2年度の重点的調査対象活断層については、本案に決定します。

(2) 令和元年度補正予算及び令和2年度予算案における地震・津波観測網について

○資料計84-(3)-1、計84-(3)-2に基づき、令和元年度補正予算及び令和2年度予算案における地震・津波観測網について、事務局より説明。主な意見は次の通り。

- 【平田委員】 台風の被害に遭った観測点の復旧・更新について、大変必要なことだと思いますので是非よろしく願います。
- 【平原部会長】 この台風被害というのは、これが一番ひどいということですか。他にありますか。
- 【中出補佐】 物理的な被害を受けたところについてご説明をいたしました。地震観測網はK-NET、Hi-netなどと沢山ありまして、新しいタイプの地震計に更新するなどといったことも並行して実施しております。本日皆様方に状況を把握していただこうと、ピックアップさせていただき御説明をした次第です。
- 【平原部会長】 特に御意見がないようでしたら、議題（2）令和元年度補正予算案及び令和2年度の予算案における地震・津波観測網についての議論は、これで終了とします。
- 【平原部会長】 本日の議題は、以上となります。
議題が早く終わりましたので、唐突ですが、活断層の地域評価の状況をご報告いただけますでしょうか。答えられる範囲で構いません。
- 【水藤企画官】 状況報告としまして、現在は中日本の近畿地域の活断層の評価を行っております。評価すべき主要活断層帯が近畿地域には20程度あり、活断層分科会での審議は残りあと3つくらいまで来ています。審議自体は活断層分科会の方は順調ですが、評価文の作成が遅れており、現在、地震調査委員会まで審議が終わったのがまだ2つの断層帯だけです。あと10数個くらい残っているという状況です。
- 【岡村委員】 今説明いただいたとおりで、評価文が出てこないことには最後までとめられない。以前もお願いしましたが、催促をしていただきたいことと、どれだけ終わっているという星取表みたいなものを作成して、地震調査委員会などの場で進捗状況などを報告していただきたい。近畿地域については、評価文も含めなるべく早くまとめるようにしたいと思います。
- 【平田委員】 今決めた恵那山の調査は広い意味で中日本に入ると思うから、この結果は地域評価に反映されるスケジュールで評価するのでしょうか。また、終了は何年度ですか。
- 【水藤企画官】 令和2年度に始まり、令和4年度に終了です。今のスケジュールですと、この屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯は、中部地域の中で後ろの方で評価するスケジュールとなっていて、ちょうどぎりぎりのタイミングになるかと思います。
- 【平田委員】 評価するスケジュールに含めてほしい。
- 【平原部会長】 先ほど岡村委員が言われたように、時々進行状況を報告していただけると有り難い。それでは、第84回調査観測計画部会はこれで終わりとなります。